

原稿用紙 3 枚以内掌編小説

コミュニケーション 2

Communication 2

## 父子シリーズ-2

Daddy, Son series -2.

うときゅういっき

by Khazu san

物書き

うときゅういっき



# 目次

- 序 芭蕉に倣う
- 本編 掌編小説 1「数字の魔性キャラ」
- 本編 掌編小説 2「探し物はなんですか」
- 本編 掌編小説 3「コラボれば？」
- 本編 掌編小説 4「さかさワールド」
- 本編 掌編小説 5「それは自分で考えな」
- 本編 掌編小説 6「スカイ・オー (SKY-O) 」
- 本編 掌編小説 7「性分 対 大人の考え 」
- 本編 掌編小説 8「己がクセ 」
- 本編 掌編小説 9「どんでん、返せる？ 」
- 本編 掌編小説 10「好きな球が来るのを待っていたら試合は終わってしまいます」
- 本編 掌編小説 11「新説 七人の敵 」
- 本編 掌編小説 12「それは見間違い。真反対で正解 」
- 本編 掌編小説 13「じゃ半分、持つよ」
- 本編 掌編小説 14「二流 (ふたながれ)」

●本編 掌編小説 15「助け舟」

●本編 掌編小説 16「今の処、オチ無し」

●本編 掌編小説 17「ネクスト探し」

●本編 掌編小説 18「特に好きな事なんて」

●本編 掌編小説 19「えっ、それって自分のあるじが自分じゃなかったって事？」

●著者プロフィール

# 序

2022/8/30

## 芭蕉に倣う（第二ラウンドもこの序で）



かなり以前、

人にものを伝える表現形式としては、口承伝播性（口にし易さ）、読者想像範囲の広範囲からして

「芭蕉の俳句が手本。このコンセプトを活かし、今少しガイド的な言葉添えをした新しい表現形式が出来ないものか？」

みたいな事を書きました。

なのに、一向にそれが出来ない。

例えば

直近記事「見当違いで逆効果」

の中で、

「人は思っている以上に遥かに優れた想像力がある。

高いアンテナとレーダーを備えている。

アンテナやレーダー感度がこちら側の想像以上に高い多くの方々からみれば「何も言わなくても見ればわかる（感じる）」ので、それだけで十分なのに、それ以上敢えて口にしたり

パフォーマンスしたりした時点で完全に「過多」「過剰」「嫌味」「これ見よがし」としてしか捉えられていない事に気付いていなかったのです。

記憶や印象に残してもらいたいがためにしている行為が、却って記憶や印象に残す事への「拒否反応」を起こさせてしまっている」

しかし是も

昔のある芸人さんのギャグフレーズ

「んもう、言わなくてもいいのに、言うんだもんなあ」

を使えば他の文言は一斉不要だった。

伝えたい事を表すのに自分の場合原稿箋3枚を要していたのもたった2行で十分だった。

で、今回その反省も踏まえ訓練がてら掌編小説を原稿箋3枚以内で書き表すトライアルを始める事に致しました。

## 本編

2022/9/25

# 「数字の魔性キャラ」



「昔ね、会社にいた頃、休み時間に会社が入っているビルの中のテナントのカフェの前でテイクアウトのコーヒーすすっていたら、突然「名刺交換、お願いしますって」知らん若い奴が頭下げてきたのよ。「えっ？何で？君、だあれ？」って訊いたら「入った会社の新人研修で、知らない人から名刺 100 枚集めて来いって言う課題が出まして、それで」っていう訳よ。気の毒だから名刺交換したけど、なんかそれって違うよなって思ったことがあった」

「よく聞く話だよ。俺も契約から正社員に昇格した途端、一人ブレストしてアイデア 100 件出して来いって言われてるし。月曜までに。そんなの意味ないと思うけど、課題クリアしないと狙ってる企画担当になれないから、仕方なくやるにはやるけど」

「そういえばネットに投稿するようになったばかりの頃、よく「毎日記事を書く決意をしました」という宣言があちこちであったな。その時思ったのは「それって、書きたいから書くんじゃなくて殆ど義務感からか自己強迫じゃないの？」って」

「どれもこれも、まず最初に数字ありきなんだよね。中身じゃなくて数字の達成が目標。本来は、いいお得意さんを見つけるとか、いいアイデアを出すとか、中身のある記事を書くとかの筈なのに、それがいつの間にか数字達成自体が目標になっちゃってるでしょ。すり替わっちゃってんのよね」

「結果、中身の薄いものができちまう。中身の薄い関係しか結べない、わな。だって不足分の穴埋め作業みたいなもんだから、ただ頭数こなせばいいだけだし、消化試合みたいなもんでもあるから、兎に角、数、こなそうっていう風になるからな」

「社会人とか会社人には数字に対する無謬信仰があるから、突きつけられると反射的に「達成レース」に名前登録して直ぐ様走り出しちゃう。でもそれって逆に数字のキャラが齎す悪い側面だよ。本来の「目的」と当面の「目標」を主客逆転させてしまう悪い意味での数字の魔力。

目標は数値化し易いけど目的は数値化しにくいから、可視化しやすい数字が自然と優位に立って「目標が目的にすり替わる主客逆転」が起き易くなるんだらうね」

「だとすると変な置き換わりを防ぐには目的も数字で可視化しておかないといけないって事になるよな」

「理屈はそうだけど、難しいよ。第一目的を余りに数値化すると今度は又逆に有難みとか、目的が本来内包している心の中の意思とか主旨とかいう「熱い」部分が薄まっちゃうでしょ。数字本来が持っている「冷静中立キャラ」のせいで」

「じゃあ、どうすりゃいいのよ？自分で言いだしといて。

ちょっとマッチポンプ過るんじゃないの？

♪オヤジ、困っちゃう～♪」

「なにそれ？キモ～」

「昔、山本リンダっていう歌手がいて、

♪リンダ、困っちゃう～♪

のパクリ」

「知らんわ、そんなの」

「この前俺に SNS で動画投稿したら言うとしたが、お前がしたら？

今の話の講師で」

「遅い。もうそれ過去(out of main)」

2022/9/25

「出てくるわ、出てくるわ。どんどん、どんどん、出てくるわ」

であったか

「どんどん、出てくる、出てくるわ」

であったか忘れましたが、中学時代、国語の授業で先生が音読されたこの詩を耳にして、大変な衝撃を受けました。

立原道造と言う人の詩で、昼飯時に丸の内のビル街から出てくるサラリーマン達の姿を詠んだものです。

何に衝撃を受けたかと申しますと、その時まで詩歌と言うものは「抒情的にしつとりと書く物だ」と思っていたのですが、この詩はその思い込みとは全く別だったからです。

「こういうのも詩って言うんだあ。戦争前の時代でもこういうのがあったんだあ。しかもリズムカルでテンポがいいから軽くて楽しいし、何回も口ずさみたくなるし…」

その影響かどうかは分かりませんが、大学でロシア文学科に進んでもドストエフスキーやらトルストイは殆どお義理で読んだ程度で、主に読み漁ったのは神西清の邦訳もロシア語原文双方共、語呂のいいチェーホフ初期のユーモア短編ばかりでした。

もしそれがなければ大学最後年、卒論の時期にロシア文学とは全く関係のない古典落語全集を何度も読み返したりする様な事もなかったでしょう。

かのチェーホフと比較するのは大変面はゆいのですが、チェーホフが後年、小説から戯曲にシフトしたのに対して、自分は戯曲の代わりに今、掌編小説+落語っぽいトーク番組みたいな

「原稿用紙3枚以内の掌編小説シリーズ」

の中の

「父子（おやこ）シリーズ」

を書いているような気もして居ります。

極めて傲慢な物言いなのですが、本人としてはそんな気でおるところで御座います。



## 本編

2022/9/26

### 「探し物はなんですか」



「お前が仕事できるのは見れば分る。だからと言って幾らお前に理が在ったとしてもああいう言い方をしてもいいという事にはならん。もし自分が年上で仕事ができる年下から今お前が言った様な言い方をされたらどんな気がする？それを考えてから物を言え。常に自分が言われる立場だったらどうかを考えてから口にしろ。いいか、分ったか」

「…」

「お前が憎くて言っているんじゃない。心配だから言ったんだ。五月蠅いとは思うが」何回目かの訪問で少しは話す様になってはいたものの、アルバイトの女の子に言うには些かきつ過ぎた気も致しましたが思わずそう叱ってしまいました。

その時自分は定年間近の年齢で、店の女の子は高校を1年で中退して間もなくでした。

「うっせえ、糞爺。客だと思ってエラソな口利くんじゃねえ」

相手を叱るに先立ってその位の事を言わる覚悟はしておりました。

それ迄大抵そうでしたから。

処がその子はそういった類の事は何も言わず

「叱られるの、お父さんがいたらこんなかなあって。あたしには居ないけど」

その後何回か街で会いました。

「会った」と言うのは逢瀬を重ねたという意味ではなく、気付いた向こうから何回か声をか

けて来たのです。

「ねえ、どうしてお店来てくれないの？」

とか

「今度絶対に来てよ。来ないと私、怒っちゃうから」

とか。

しかし、その後その店には一度も行きませんでした。

会社でその話をすると同じく定年間近の同僚から

「何それ、勿体ない。そんなチャンス滅多ないぜ」

と言われたのですが

「そんなヤバ事出来んよ。未成年略取で獄門磔が相場よ」

と冗談めかして話を他にもって行こうとしました。

その時迄に自分は一度離婚をしておりましたが、その経験から自分が女性とお付き合いを  
するのに全く不向きな人間である事を知っておりました。

「自分はしたい事を直ぐ夢中になってしてしまう我儘な人間だ。相手が「それでもいいから」  
と初めは言っていたとしてもそのうちヤになる。或いは相手から先に機先を制して「それは  
分かっているから」と言われた場合にも却ってこちらが気を使い、逆にしたい事を控えてし  
まう。いずれ先々、お互い窮屈になる」

その子には筋違いな話を筋立てて考えておりましたら同僚が

「俺なら絶対味見だけでもするがなあ。なんせ「据え膳喰わぬは男の恥」

だが女もそこ迄言っ来ているんだったら何もせん方が余程恥になるんじゃないか？相手に  
してみれば？」

「俺の恥はどうでもいいが、相手には一時恥を搔かせてもその先を妙にさせる訳にはいか  
ん」

「なに神妙がってる？」

「違うよ。流石「お父さん」って言われるとちょっと」

「「お父さん」は間違いなく逆使いだぜ。甘えたいって言う謎かけ」

「ようわからん」

といいつつそんな気もしておりました。

しかし何故かこうした幸風には反射的に足止まるのが常でした。

「何止まって、何探してる？」

となると、自分にも

「よう分らん」

のも又、常でした。

2022/9/26

自分は別にプロの物書きになろうとは全く思っていないので、独創性とか独自性にそれほどこだわってはおりません。

本編も書いている途中にふと思い出したシンガーソングライターの井上陽水の曲から「お題をお借り」しております。

活かせるものは何でも活かして言いたい事を伝える事にしております。

本書には付録として井上陽水の曲ストリーミング・ライセンス・キーは付いておりませんので、その点ご注意くださいませ。

# 本編

2022/9/27

## 「コラボれば？」



「Do it が現在形で have done it が現在完了形。

これ中学で習うけど是じゃあ英語、ヤになるわなあ」

「また、英語？国際関係 matter?

「世界ふしぎ発見」じゃなくて「日本ふしぎ発見」？」

「お前も大分、心得て来たな」

「お世辞はいいから、先どうぞ」

「店でネパールコック達に色々指示出すんだがイマイチ意図が伝わらんのだよ。言いたい事のニュアンス。おまけに連中、日本語は勿論英語も難しいのは分らんし。だから難しいのは使えん。さてどうしたものかって」

「前から、だよね」

「そう。で、この前「仕事を（単にアリバイ的にやるんじゃなくて）（ちゃんと）（やった事の効果が確認できる処迄）しろ」と言うニュアンスで言うにはどうすればいいか考えてたのだよ。それ迄はさっきの do it を使っていたんだが、それだといつも「一応、手は付けたが、結果はほったらかし」ベースなのだよ。で「単にアリバイ的にやるんじゃなくて、手を付けた効果が確認できるまで、ちゃんとやれ」というにはどういえばいいのかな？って。そしたら突然、中学の現在形と現在完了形の授業を思い出した訳。それで

Have done it を使ったらどうだろうって。

簡単にニュアンスを訳すと「最後までちゃんとやり遂げろ」かな？

現在完了形っていうくらいだから、仕事を「完了」しろ、な訳よ」

「で、結果は？」

「バッチゲーよ。Do(ドゥー)じゃなくて done(ダン)てえ音の力強さが利いたみたい。それに have が付くと、ちょっとこの場じゃ言えない彼らのエロ話の中に出てくる「グサッ」とか「ズボッ」とかの意味合いを含んだ「ヤッター」感が出てくるのね、have done it で。

「カンチャンズッポシ、ヤッターマン。入れポン出しポン、ナポレオンな、あれの映像浮かんで」

「何の話してんの？主題がよく分んないんだけど。

でも、中学のよりはオモロイかも。多少」

「そういえばこんな事もあったな、別件だけど」

「えっ、更に別のエロ話？」

「今度は結構格調高い奴」

「格調？似合わねえ〜。ま、いいや。で、何？今度は」

「Have done is better than no have done っていう英語の格言があるんだが、日本語にすると「しないよりした方がマシ」っていう極めて道徳的で格調高い奴。是の現在完了部分を厳密訳すると「しない「ままで居る」よりはちゃんと「成し遂げる（迄やる）」（「」部分が現在完了（時間の継続））方が良い結果が得られる」となるけど、ちと長すぎるから「しないよりした方がマシ」と訳したんだろう。

処が訳者は完了形である事の意図を理解してなかった。この語で「継続」すべからざる事と「継続」すべき事を語ってるのに、その「継続」を訳に入れなかった」

「あらら」

「処で漢字に「誠」ってあるだろ？何を突然と思うだろうが、今の have done it 実は「誠」と繋がるのよ。

「誠」って字、言+成だろ。詰り「言った事を「成し遂げる迄やる」（約束を果たす）」のが「誠」の字義。

英会話、にほん語コラボで、オモロない？」

「よ、暇オヤジ。パチパチパチてか？」

2022/9/27

無論、他の方々から比べれば、ありやなきかのダウンロード数なのですが、自分の作物の中では「前座の英語」シリーズとこの「原稿用紙3枚以内掌編小説」シリーズ、なかんずく「父子（おやこ）」シリーズのダウンロード数が比較的多いので、  
「是を掛け合せる（コラボ）とどんなものが出来るだろうか？」  
という思いつきに基づいて書き表しましたのが、今回の作物で御座います。  
これこそ完全なトライアルですので、余り厳しい目でご覧戴かないで下されば、当方としては極めて幸甚で御座います。

## 本編

2022/9/28-2

### 「さかさワールド」



「ランニングっていうと車道を走り、自転車に乗るっていうと歩道をかつ飛ばす。

「人の話聞いてんの？」と言う癖に当の本人は人の話全然聞いてない。

家の中じゃそれ程見ないスマホを外に出た途端矢鱈見まくる。歩きながらも電車に乗っても。忙しぶるか目線そらし。スマホは恐らく隠れ蓑。

ちょっと時間があつたのでチャ、チャット作りました、の投稿写真が完璧カタログ写真並み。ナニコレ？みんな反対じゃないのよ。どうなってんの？一体」

「今頃何言ってんの？もう前からそうだったじゃない。何を今更、新大陸発見のコロンブス顔してんのよ」

「いや、だいたい前それに気付いたのは覚えているが、何処へ行ってもこんな「さかさワールド」ばかり見せつけられたんじゃ、いい加減ウンザリして改めて吠えている訳よ」

「我が国国民の特徴として「裏読み」っていうのがあるでしょ？裏読み。

全てさかさにスタート。反対読みがスタンダード。

時には、裏の裏。

更に裏の裏、の又裏とか。

そんなの繰り返している内にどっちが表でどっちが裏か、正（せいとまこと）が分んなくなっちゃったんだよ、きっと」

「確かに、自分が裏読み常習犯だと、いつの間にか相手も同じ常連だろうって思い込んで、相手の言う事を素直に聞けないみたい傾向はあるな。大抵は相手の言った事の反対を想定してその先を進めてしまう。それがさかさワールド急拡大の原因かも、な」

「兎に角、逆から始めるから全部ボタンの掛け違になるのよ。そこいら中。だからことごとく全てがずれ込む。結果不信と混乱が頻発して常駐」

「ううむ、同じ言語を喋ってんのに話がまるで通じないか、噛み合わない。是じゃあ「違う言語を話す嫁さんを貰うと苦勞する。だから同国人と結婚」っていう無意識の前提が既に崩れとうな。いや、同じ言語を話せるのに話がまるつきり通じんたら、その方が余程がっかり度、でかいわな。そうなんやったら言葉の壁覚悟で、気立てんいい、ジェスチャーや表情だけでん通じる外国人ヨメ御もろた方がよっぽどマシ思うわ、ホンマ」

「それで、最近オヤジは外国のねえちゃんに走ってる訳？」

「うっ、何をおっしゃるうさぎさん。しかしお前、よう見とんなあ。その観察眼、他に使こたらどねえや」

「話、外そうとしてるでしょ。関西弁になると大抵後ろめたいか、照れ隠しか、のどっちか」

「何が、ですか、失礼な」

「お、今度は関東弁。やっぱ、その再切替え見ると、図星だったみたいね」

「話、元に戻すぞ。

ん？で何だっけ？」

「知らんよ、俺」

「あ、そうそう、観察眼。

観察眼とは言うものの、

さかさワールド、その中で

その実、実態、スパイアイ。

鵜の目鷹の目、障子の目。

深く静かに潜航し、

浮いては潜る潜水艦

出しては隠す潜望鏡

相互監視の闇社会。

相互不信で仮面着け、

外せぬ仮面のその下で

窒息寸前鎖国島

それは嫌だと

思いつつ

あした伸ばしで

どうすんの」



「ねえ、聞苦しいから普通に喋って」

2022/9/28

今日こそは本年度上半期締め仕事をしなくちゃ、と思いつつもついついこちらの方に手が出てしまいます。

それはお店に対して無責任になりますので

「今日を含めて後三日、本業に戻ります」

の予定です。

## 本編

2022/9/29

### 「それは自分で考えな」



「オヤジ、あれ、どうにかなんないの？」

青い山脈の替え歌、

♪ちちもでました、けも、はえたあ〜。○○スもあります、おんなですう〜、あ〜おい○○  
ティ〜ひざまでさえげえてえ〜。はやくして、はやあくしないとマ〜マア〜がくる♪  
とか

軍艦マーチの、

♪戦艦大和の進む時い、カ〜二に○○ぽこ、挟まれてえ、アイテて、いテテテ、毛が抜ける  
う、これでは大和は、進めない♪

とか、もうちょっと、他にないの？

他に、風呂で歌う歌の選曲基準に関して」

「おまへん」

「今少し異性、意識したらどうなのよ？第二の人生、新たな婚活目指して。

その為には、渋い二枚目キメルとか、背中に影しょってる姿みせるとか、そういう姿勢、必要なんじゃないの？如何なる場面に於いても」

「そんなの、疲れっから、ヤだ」

「ヤだって、それが69歳にもなる男の使う言葉？」

「もう俺はガキでいいの。ガキンチョは体裁、作んないの」

「作んない割には、外国のねえちゃん攻略法、考えまくってるよね」

「あれはあれ。是は是」

「又々不透明な線引き、怪しい裏取引」

「そもそも外国のねえちゃんにしても、昔は大和撫子、今は完全に別種で「にっぽん、よいところ、一度はおいでえ〜で来日した外国人泣かせ」の我が国のねえちゃんにしても、女を落とす迄は男が目いっぱい高下駄でエエカッコするもそこが頂点。

後はギリ貧下り坂だったらどうすんかね？ねえちゃん？

高下駄履いたにいちちゃんも、手持ちカード初めから全部切っちゃう訳だから、もう持ち駒、残ってない訳でしょ？どう、すんの？その後。

ほんなら端で最悪みせといて「初めちよろちよろ中ばっぱ」流れでカイゼン効果出して次第にギリ上がってく方がカイゼン（快善）的で良くない？

喜ばしといてがっかりさせるよか諦めさせといて最後大化けの方が」

「分らないはないけど、先ずは引っ掛からない事には何も始まらないっていう心理もあるんじゃない？入試でも就活でも、後、ドラフト会議なんかでも」

「だから外れるのよ、取る側も。だって背伸び天井だったら残りの糊代、0でしょ？成長余地無しなのを取る訳でしょ？だから外れるのよ、採用で。

あくまでも余力、糊代残しておかないと、採用される側も打ち手に幅持てないでしょ？

幅持てなきゃ、相手の言うなりでしょ？

だって他に選択肢なくて其れ一本になっちゃったら、選び様ないからすすがるだけ、お願いするだけになっちゃうでしょ」

「じゃ、どうすりゃいいっていうのよ？」

「鼻から諦めなって。捨てちゃいなさいって。受かればみっけもん位にしておきなよって。ダメだったら他探すからいいです位、相手に言ってやれよ、って」

「それって、開き直れ、って、事？」

「先ずは対等、たいまんで。丁半出たところ、時、運次第。鼻から媚びるな、尾を振るな」

「で、行きつく先がオヤジなの？」

「痩せムスコ、負けるな、父ちゃん、此処にあり」

「語呂だけよくて、どうすんの？」

「それは自分で考えな」

2022/9/29

切羽詰まった日程の割には、朝起きると仕事机ではなく趣味机の方に足が向いてしまいます。（と言って実際に机が二つある程恵まれている訳ではなく、単にパソコンで開くフォルダーの選択順を申しただけの話ですが）

是って、学生時代、試験の前に矢鱈本が読みたくなる、あの逃避心理と同じなんでしょうか？

そういえば最近なんか、学生時代に戻ったような気もしております。

楽しかった反面、何かに怯えて逃げまくっていた就活前のあの頃に。

## 本編

2022/9/30

### 「スカイ・オー (SKY-O)」



「こら一つ、自転車は車両やろうが。車両は車道、走らんかい。じじばよろけて致傷致死事故でも起きたらどねえするんじゃ、この外道が」

「ちょ、ちょ、ちょっと、オヤジ。恥ずかしいからやめてよ、公道で声上げんの」

「何がじゃ。おかしいからおかしい言うてる。事故は被害者家族は勿論、加害者家族も不幸になるんで。」

恐らく車道走って被害者になるのが怖くて歩道走っとるんだろうが、歩道、自転車で走りよったら今度は自分が加害者になるんでえ。何故そんな簡単な事が分らんのかねえ」

「オヤジが言ってる事が正しいか相手のやってる事がおかしいか、じゃなくて、KY だっ、つうの。空気読めてないって。」

だから人さまから SKY-Z (スカイ・ゼット) なんて呼ばれちゃうんだよ。「坂の上の空気読めない、ズレズレ父子 (おやこ)」て。

SKY-O で「空気読めないオヤジ」だけならいいけど、俺迄一色単にされると、極めて心外この上ないんだけど」

「アホダラ、何が心外この上ないだ。お前みたあに、そねえな空気ばかり読んでって、どねえするんじゃ、あん？」

「何、青臭い事いってんの。もう大人になって大分経つんだからその辺、分ってるでしょう

に。69年も生きて、おまけに大学まで出てんのに、ほんま、学習効果の薄いお人だわ」

「学習効果て、是又なんじゃ、あん？」

確かに自分は大卒じゃが、行かんでも済んだ様な気もするわ。

行って空気の読み方とか我田引水の為の辻褄合わせ法、将又上手な言い逃れ法やら口先だけで儲ける方法みた様なもんばかり学んでどねえするんじゃ。インテリジェンスを人の為に使わんで自分の為にばかり使ってええのんか？せえやからインテリは町の衆から嫌われるんじゃ。

しかも親は苦勞して高い金払ろうて子供を上为学校に通わせよる。て気が最近してならん」

「何いってんのよ、オヤジ。

今時の親は「まさに」それ目的で、子供、上为学校にやってるんじゃないよ。

仮に獲得不手際に終わっても、セーフティネットで大卒免状だけは貰える様になってるし。

至れり尽くせりの安心安全ガード保護がかかってんの、今は。

まず、その認識自体がずれてんのよ、SKY—O（スカイ・オー）殿。

何はさておき、先ずその認識から替えないと、この先悲惨な末路が待ってる事になると思うよ、オヤジ。

老婆心ながらそう申し上げておくよ。息子が老婆心てえのも何か変だが」

「何やら話がデカなってきたな。少し縮小」

「KY。オヤジが勝手に独りで盛り上っただけだろ？」

「まあま。基。

時には自転車も歩道走らにゃいかん場合もあるやが、最低限呼び鈴鳴らすとか声掛けするとか、減速する、だとかしてもよさそうなもんやのに、其れすら一切せんから、腹たつの」

「今時見ず知らずの人に声かけるって、結構勇気いんのよね」

「勇気？」

「正しい事言うにも勇気いる。正義の味方ブリッ子ってなじられる」

「正論って案外、人の心、傷つける事もあるしな」

「少しは大人ジャン、荘」

2022/9/30

ワクチンを打つと、抗体が強すぎる自分はアナフィラキシーショック症状を起こす可能性が高いので未だ一度も接種して居りません。

その為、防疫策として人混みになり易い公共交通機関の使用を極力避けております。

変わりにお店までの通勤は徒歩か自転車です。

処が、昨日、自転車を押していて命からがらの目に遭いました。乗っていたのではなく道路を過（よぎ）る際に押して反対側に渡ろうとしていたのです。

そうであるにも拘らず、乗用車が突如エンジン回転数を上げて突っ込んで来、とっさの判断で自転車を歩道に押し上げて間一髪、難を逃れました。

周りで見っていた人たちは一瞬、棒立ちでした。

何故突如、乗用車が「発狂」したのか？その理由はまるでわかりません。

本日はその体験をきっかけに、更にこの3年あまり自転車や徒歩通勤で経験したことを元を書いてみました。



## 本編

2022/10/1

### 「性分 対 大人の考え」



「ところでオヤジ、会社入る前、爺ちゃんにこっぴどく叱られた「夢みたいなさばかり言ってるんじゃないって」っていう原因だった「シルクロード探検したいとかブラジルで開拓民になりたいとか小説家になりたいとか」思ったのは何で？爺ちゃんが心配するのも無理ないよ。とても正気の沙汰とは思えないよ。夢多き1年生が言うならともかく、就活真ただ中の人間のいうこっちゃあないよ、フツー」

「でも、マジそう思ってたなあ」

「うっそお」

「今思うと、元々判じ物とか推理物が大好きだったけど、頭使うだけじゃ何か物足りない気がして好きだった外歩きや体を動かす事とうまく組み合わせられないだろうかって考えてたんだ。そして候補に挙がったのが考古学者と未開の地の開拓民と小説家。考古学者はシルクロードを恐竜の化石を求めて探し回るのにロマン感じたし、道なき道を切り拓くブラジルの開拓民にはパイオニア精神。それと外を歩き廻って観察した結果を元に「無」から「有」を筆一本で産み出す小説家には創る喜びみたいなものを感じたな」

「言葉はカッコいいけど、その実すっげえ曖昧な根拠。そんな曖昧な根拠で人生決めようとしてた訳？よくそんなレベルで就活に対抗できたよね？信じられん」

「えっ、何で？可成り深い根拠じゃない？好きとか憧れるとかやってみたいとか」

「爺ちゃんじゃないけど、そんなで戦地行ったらまず一発で頭、ぶち抜かれちゃうって。爺

ちゃん其れ心配してたんだよ。俺も同じ事、まず思い浮かべたし」

「鎧兜の重武装人間より、案外そういう奴の方が生還するんだって。それが世の中の不思議っていうもんよ」

「懲りませんねえ、相変わらず」

「いや、一応科学的な理屈は立てられるのよ。鎧兜固めまくり人間てえ物凄く心配性な訳でしょ？何事も過度だと偏りが生じるのよ。100 ある不安全部消さなきゃ、って思うタイプな訳でしょ。でも 100%不安解消なんてあり得ないよね。すると何が起きるかっていえば、残り 1 つ 2 つを消すのにシャカリキになるから全体が見えなくなってバランス失っちゃう訳よ。それが偏り。

処がそんなの無駄って思えば偏らずに済んで、偏らずに済めば色んな事に等距離で立てるからどっちに行くにも同タイムで動ける。当然フットワークが良くなる。フットワークが良くなりや今度は空に上ってバードビューも得られるっていう理屈。ま、理屈だけだね」

「てな事、言ってる間に頭、ぶち抜かれちゃうと思うよ、俺は」

「かなあ？」

「まず自説ありきでしょ？我田引水、ポジショントーク。その方が余程偏ってなあい？」

「お前、最近腕上げたなあ」

「俺が上がったんじゃないくて、オヤジが自己都合の屁理屈に囚われて地盤沈下しただけよ」

「お、増す冴え」

「息子にお世辞こいて、どうするの」

「ゴマすりヨイショが融和の秘訣（よのならない）」

「ある程度分ってるのに何故その線で行かないの？」

「性分、性分、俺の性分、かな？」

2022/10/1

原稿用紙 3 枚以内の掌編小説シリーズの中の

「父子（おやこ）」

シリーズに関して、以前

「作者は一人住まいで実際に「父子（おやこ）」で済んでいる訳ではない。これは完全なるフィクション（作り事）である」事を述べました。

「じゃあ、何を元にして書いているんですか？過去の思い出か何か、ですか？」

といった趣旨のご質問を受けましたので、この場をお借りしてご回答申し上げます。

曰く

「父が「自分の性分から出た声」で、子が「恐らく世間ではそう言っているのだろう」という頭の中に住んでいる「別の自分の声」なのです」

と。

「スマホもみない。テレビも見ない。音楽も聴いていない。それでよく退屈しないね」とたまぁに言われますが、右記の様な感じで常時数人、意見を異にする住人が頭の中でべちゃくちゃやっているのを傍らで聞いている様なものなので、案外退屈せずに済んで居るので御座います。

## 本編

2022/10/2

# 「己がクセ」



「オヤジ、最近、性分、性分てえ、性分てえ言葉矢鱈口にするけど、性分てえ一体何の事？国語辞典的には分かってる心算だけど、オヤジが言うのは何かちと違う様な気がしないでもないし」

「国語辞典で「性分」はその人が生まれ持ったもの、その人の特質、情動の意だが今少し科学的に言うと（今度は「科学的」が多いと言われそうだが）潜在意識の事かな？」

「何よ、突然。なに、その潜在意識って？」

「相（あい）対に「顕在意識」って言葉を置いてみると分り易いかも、な。

つまり人間には顕在意識と潜在意識がある。よく言われるのが顕在意識 1 割で潜在意識の比率は実に 9 割。顕在意識が理性で潜在意識が感情、又は眠っている、隠れているその人の本性と言い換えるともっと分り易いかもしれん」

「要するによくドラマなんかの語りで「頭では分りつつも何故か実際の感情は別に動き出し」っていう様な、あれ？」

「そうそう。それぞれ。何しろ潜在意識 9 割だから圧倒的にそちらのパワーにひかされる訳よ。パワーと言えは日頃意識して使っている顕在 1 割での出力レベルが今の値だとすれば仮に残り 9 割の潜在意識領域も使えれば更に 9 倍ものパワーが加味される事になるんだぜ。凄くない？世界がグンと広がるって気、しない？」

「で、自分としてはその開拓の為に潜在意識の声、つまり自分の「性分」に従ってるんだと言いたい訳？」

「ほんま、理解速うて助かりますわ。お前、俺の専属通訳にならん？ご近所様相手に会話する際の」

「俺、勤め人だよ。そんな暇、ある訳ない」

「しかし世間様の評価は「顕在意識が正」であるのに対して「潜在意識の方は負、裏、陰の声」っていう捉え方が圧倒的だよな。けど逆に潜在意識からの声（情動）を「正」と言うより「むしろ主（main）として」扱うよう重心を移したら一体どういう事が起きるのか？それを実験してみたい、その結果仮に「成れの果て」になったとしても確かめずにはいられない衝動に駆られるのよ、俺は」

「怖い物見たさと言うより何かちょっと破滅的というか半ばヤケクソ自暴自棄的な臭いがしないでもないけど」

「もともとダメ元、元気の素。出たところ勝負が真骨頂。やってみなきゃわかんないからやるんでしょうに精神からすれば至極当然「理」の骨頂。極々自然なストーリー展開なんだけど」

「出ましたあいつものの口癖」

「ん？そう言や口癖とか「なくて七癖あって四十八癖」のクセ、

「アイロン押しされた隠れ心理」であるクセって

案外潜在意識世界からの

それこそ「無意識な」 a signal of 「本音本心漏れ」

なのかも」

「ま、老い先短いし、特に世間様から注目されてる訳でもないし、失敗した処で世の大勢に全く影響なかろうから、好きにやれば」

「ん？それって、将に喧嘩出入に行く矢先、目の前に無言で出刃包丁おかれたみたい。一瞬興ざめて、却って熱が引いて冷静取戻させる引き止め効果狙い？」

「別に俺、そんな効果、狙ってませんから」

2022/10/2

日々、世の中は変化し、朝起きると予想だにしない事が平気で起きているので、書くネタにはいっこう事欠かないのですが、それに逐一对処しなくてはならないとなると話は全く違ってきます。

商売の観点からすると「書くネタに困る」位の平穏な日々の連続が好ましいのです。

結果、締めてみると書きネタプラスの商売マイナスの「プラマイゼロ」の「イーブンツウペイでフラット」（敢えて平穏とみなす平坦）。

そう考えるしかありません。

From 生き地獄の日々を送る一飲食業者 談。

# 本編

2022/10/3

## 「どんでん、返せる？」



「恐る恐る値上した途端千客万来。はっ？一体どうなってんの？世の中。  
ま、1日だけの事かもしれんが。  
でも正直、完璧予想外の超絶嬉しい誤算」  
「あり得ないが起きるのが世の中だっていつも言ってるくせして」  
「ここ迄あり得ない事が起きるとは perfectly 想定外 itself だった」  
「あれじゃない？店の前の「お知らせ黑板」に値上理由「質と量を落とさない為」って書いたあの一行」  
「やっぱあれかな？俺も考えられるとすればそれしかないかなって。  
でもあれな、ネットで見たある投稿からヒント得たんだ」  
「どんな？」  
「ある若い人がした「頼むから値上してくれ」っていう「えっ？なんの話？」と思う様なタイトルを投稿を見たんだ」  
「頼むから値下げしてくれ、じゃなくて？」  
「そう、真反対だったからえっと思ったんだ。それで記事を読んでも「確かに前と同じ値段だがなんか質と量が落ちてる。がっかり。お金払ってもいいからまともなものが食いた

い。払ってもまともなものが食えないのは寂しい。だからお金払った分まともなものが食えるよう、頼むからちゃんと値上して、ちゃんとしたものを喰えるようにしてほしい」って」

「確かに同じ値段なのは嬉しいけど食ってみたら全然別物っていうのは逆に期待裏切られたっていうかむしろ騙されたっていう気持ちになるよなあ。最近そんなのばかりだし。

「皆様の懐への優しさ。頑張りました」といいつつ裏で質か量かネグってるインチキ」

「それで又々思ったんだが、今の若い人ってそんな風にさんざ騙されてきたもんだから、いい加減お為ごかしのヨイショ話に辟易して、むしろそんなウソつかれる位だったら逆に悪い知らせでもいいから真実を前以て言ってくれた方が未だマシ。「ナニソレ？どうすりゃいいのよ」みたいに最後の最後になって打ち手ゼロになるよか、いっそありのままを正直に言ってくれた方が未だ対応できるし清新さを感じるって思い始めてんじゃない、って」

「確かにもう、だよな。旨い話なんて早々滅多ないのに、それをあるあるって相変わらずびいひやらやってる連中、そろそろいい加減にせえよ、もうその手は桑名の焼き蛤だぜって」

「えっ、お前又えらく古いの、知ってるな、桑名の焼き蛤なんて」

「ジィちゃんオヤジ系統の流れ、汲んでるからなあ。空気伝染じゃない？」

「話は変わるが年配は価格と名優先で若い人は味と量の実質優先、かな？」

「それは言えてる」

「そういえば昔、会社員時代にある叩き上げの先輩が「お前は青い。商売なんてそんな甘くねえ。騙すか騙されるかだ。人が良けりゃいいってもんじゃないねえ。正直ばかりじゃ飯食えん、その位覚えとけ」って」

「ま、普通そうよ、世の中は」

「でも、ほんとにそうかなあ？って。なら一丁試自分で試してみるか。それを通し続けると一体どういう結果になるのか？それが巡り巡って今回のお知らせ黒板になった様な」

「そういう落しかあ。でも、ちっと作り過ぎてるな」



2022/10/3

今日のお話は、シリーズの中では、割合と事実在即した内容になっております。相変わらず息子役は自分の頭の中に住んでいる「世間の考えはこうなんだろう」という自分の推測を基にした誰かさんですが。

本日は定休日。

しかし定休日こそ忙しい。

何故かと言えば営業日には出来ない公私にわたる雑務処理と雑用に追いまくられるからです。

そういえば昨日、何のアポもなく突然外国の青年が「日本語を教えてください」とやってきました。

咄嗟の事だったので日本語を教える準備ができておらず、やむなく煙幕で「日本式礼儀作法」の講義を致しました。

青年は余りの意外さに、面食らっておった様でした。

兎に角毎日、いろんなことがおきております。

俗にいう

「貧乏暇なし」 A poverty has no leisure

な日々なので御座います。

(補足)

巻数を表す丸囲み数字で5 1 以上が出てきません(出し方が分かりません)ので⑤①と致しました。

(アプリはMSのIMEとWORDでございます)

以降の巻数表現もこれに倣いそうなる予定で御座います。

ご容赦くだされますようお願い申し上げます。

## 本編

2022/10/4

# 「好きな球が来るのを待っていたら 試合は終わってしまいます」



「好きな球が来るのを待っていたら試合は終わってしまいます」ってイチローが言った。  
「来た球をコンマ何秒と言う範囲の中で判断して打ち返す。その為のトレーニングを毎日  
やっている訳です。だって打者の好きな球投げってくれる投手なんてこの世に一人も居る訳  
ないですからね」って」

「何か、意味深だね」

「で思ったんだが、俺達はいつも「好きな球が来ない。何で来ないんだ。早く投げろよ。投  
げてくんないや拗ねちゃうぞ。拗ねちゃうのは良い球を投げてくんないお前が悪いんだか  
らな」的な処が、在りやなし（梨）やの栗きんとん」

「何その最後の「栗きんとん」て？」

「在りやなしやのなしを♪桃栗3年柿8年ゆずは9年でなり下がり梨のバカめはあ18年  
〜♪の、その「梨」に掛けたの」

「何、その歌？」

「入社仕立ての頃 TV ドラマの「時をかける少女」で原田知世が歌ってた歌」

「そんなの全然知らんわ。それにしても入社仕立てなら仕事、覚えるんで必死こいて、そん  
なの覚えてる余裕なんてない筈なのに、やっぱ、なんか、やる事成す事全部ズレてるんだよ

な、オヤジは」

「ま♪いいじゃ～ないの～シ、ア、ワセえならば～♪で、それはさておき、元に戻って、要するに、だ、イチローの話からすると俺達はむくれる先を「お門違い」イヤむくれる事自体無意味だろって言ってる様な気がしたんだ」

「そこだけ可成りマジに受け留めてるよねえ。そういやオヤジ、評論家の話とかは全然耳傾けないけどスポーツ選手の話は意外とよく耳、傾けてるよね」

「スポーツ選手の話には経験と実績に拠る裏付けがあるが、評論家のは only by mouth ではないから」

「ごめん、話逸らさせて。今日は俺の方が」

「♪たまに寄り道帰り道。何かいい事ありそうな♪と自作川柳詠んだ上で  
ま、たまにはそれも又一興、と」

「どうも一回ズレっとその後ずっとズレまくるから、やっぱ、ごめん、だわ」

「苦しゅうない苦しゅうない、さ、さ、そこ元、ず、ず、ずいと近う寄ってたもれ。耳貸してたもれ」

「火付け役ながら流石、もう飽きたからいいよ。滑るギャグ続けるのは不仲の素だから早々に切上げてその先進めてよ、お互い良好な父子（おやこ）関係維持の為に」

「飽きたと言いつつ何かお前が誘いを止められなくなってる？ まあいいや。要は、だ、来る筈のない好条件を其れ本命でずうっと「待ちぼうけ」し続けてるだけなんじゃない？ だったら一刻も早くその「無駄ぼうけ」に気付いて棚ぼた本命の他力与奪に「おさらば」し、遠回りに見えても自力与奪で日々コツコツの地味トレ続けた方が余程マシな結果、得られやせん？ かなって」

「どうもオヤジの話は物によるレベル格差、激し過。時々あり得ないスクイズされたみたいで面食らうわ」

「如何なる事態にも面食らわん様にする、それがイチロー訓の肝よ」

「あわわ、もう完璧、イチローのおんぶお化けに取り憑かれてるわ」

2022/10/4

父子（おやこ）シリーズを書いているのを目にしたのかどうかは知りませんが長男から

「元気にしてる？」

と電話がありました。

「ゲンキ、ビンビンだ。お金以外は」

「あ、そ。なら、いいよ。ゲンキにしてるかどうかだけだから」

「お前も、ゲンキか」

「うん」

「なら、いいわ」

で、電話はおしまい。

掌編小説内のようなやりとりがないのがここ最近の常で御座います。

以前は、掌編小説内のオヤジ役の様に、自分は喋りまくっておりました。

そこ迄喋っているのに分ってくれていないと父である自分はイライラし、

反対に息子達は

謂われなくても既に十分分っている事を更に東京大空襲みたいな絨毯爆撃レベルで何回も何回も上重ねで繰り返し言われるのにいい加減ウンザリしていたようです。

その辺、昨今は、右記（上記）の様な自分の気づき、反省もあって幾分改善されてはいる様なものの、元々がお喋りの権化みたいな自分としては隠された欲求のはけ口に困り、言い換えれば欲求不満に陥り、ある種、その解消策としてこのシリーズが始まった様な処もありそうです。

一方外国の家庭はどうかと申しますと、我が国の様な、親しい間柄、なканずく親子関係に於いては更に、無駄が許されず、最小にして最大の効果を強要する「以心伝心当然世界」を求められますが、彼らにはそのような不文律や文化習慣がありませんので、結構ぺちゃくちゃやっているようです。

しかし、我が国では「男のお喋り」言い換えて、自分流の命名法で申し上げますと「男のおばさん」等、終戦後70余年を経た今日ですら「決してあるまじき男の姿」評価のままである様で。

結果、そのはけ口はないものか、ああでもないこうでもない余計な苦勞をしておる昨今の自分のありようで御座います。

# 本編

2022/10/4-2

## 「新説 七人の敵」



「そういや昔、ばあちゃんが「男は外に出ると7人の敵がいる。この世には自分のそっくりさんが3人居る」と言ってたな」

「何よ、突然」

「何やら突然、が常なのよ」

「一声かけると直ぐ寄り道するから、今日は何も言わない。どうぞ、お先へ」

「で、最近のニュースによると世の中に自分のそっくりさんが3人いるっていうのは、実は自分と似た遺伝子の持主が居る確率とその相手と平均寿命内に会う確率を掛け合せるとその位になるらしい事が分かってきたって。だからばあちゃんが言った事はあながち非科学的な話でもなかったみたいね」

「じゃあ7人の敵の方は？」

「こっちは何か科学的な根拠に基づいた数字じゃなくて多分何かの譬えだと思う」

「例えば何の？」

「ばあちゃんが7を使った意味は多分「(敵が) 多い」「そこいら中(四方八方敵だらけ)」の意味だったと思う。けど文言自体には「少なくとも」を入れてないから原義は油断大敵への注意喚起よりむしろ四方八方の八、つまり沢山を表す八百屋、八百万(やおよろず)に使われている8を基準に考え $8 - 7 = 1$ で「思っていたより一つ少ないだけ」ともいえるし、十人十色や十点満点なんかで使われる10を基準に考えれば7は「そんなでもなかった」という事になりはしないかと俺は思ったんだ」

「えっ、何が言いたいのか？しこうして、その心は？」

「おっ、ちゃんと使っとるねえ「しこうして（而して）」

昔、漢文好きの爺ちゃんに「しかして（而して）」といったら「阿保、それは「しこうして」と読むんだ」って叱られた話、したよな。それ、よく覚えてたな、感心、感心」

「お客さん、列、乱さないで、その先ドンドン進んでね。警備員の仕事、増やさないでよ。給料増える訳じゃないんだからね」

「返す刀で小手、面、胴か。ま、いいや。で「世の中に敵は多い様でいて思っていたより少ないかそれ程でもない」とまずは一旦解釈し、その後更に「どの道この世に 100%はない訳だから周り全員が敵という事もない。いない様でいて味方になる奴が必ず誰か出てくる筈だ。但しそれが人により 1 人だったり 3 人だったりするが、いずれ皆無の 0 という事はない。だから年柄年中そう迄隙無く鎧兜で身固めするばかりが男の本姿、本領、本懐とは限らない。今少しリラックスして他人様にほんの少しでいいから門戸を開けておきなさいと言う「敢えて隙見せ」の説」

「皆、オヤジの事「本当に日本人なの？」ってよく言うけど俺から見ればオヤジの方が遥かに日本人そのものだわ。だって日本人に染み付いた裏読み、裏の裏読みの技、オヤジくらい常用する人間も早々居なからうから逆に日本人そのものだと思うよ、俺の観察によれば」

「おっ、出ました。俺がいつも言ってる、観察。

誠に結構な事ゆえ引き続きドンドン進めなさい」

「お客さん、前の人、無理矢理せつつかないでね。前の人、ちゃんと分ってんだから」

「えっ？あつ、はい、警備員さん」

2022/10/4-2

今から七年ほど前、自費出版で第一作を紙ベースの本で出す前に、編集者の方から

「文体、用語、漢字その他の表記の統一」という事を厳しくチェックされました。

読者の読み易さ、逆に言えば不統一による混乱や不快感を考えれば、自分もそれを当然の事だと思い、一つとして疑いもしませんでした。

ところが自分がそれ以降書いているもの、特にこの原稿用紙 3 枚以内掌編小説シリーズでは、用語、漢字等の表記は別として「文体と言うものがめちゃくちゃ」になっておる事に気づきました。

例えば、同じ複数の登場人物或いは語り手が時には関西弁だったり、時には九州弁、将又北海道弁に東京言葉が入り乱れ、ちゃんぽんもいいところになっておる事に御座います。

しかしこの件に関しましては「乱調を来たしてきた」というより「自然発生的にそうになってしまう」事がありますので文体の統一より「その場面での臨場感、雰囲気、分かり易さ」を最優先させていただきたく思っております。

但しこれも読む方あっての事ですので、ご不快に感じられる様な場合、或いはお分かり難い場合等には率直に提言して戴くなり進言して戴くなり、をお願い申し上げる処で御座います。

極力改善努力をさせて戴く所存でございますので、ご忌憚なき直言をお願い申し上げる次第で御座います。

## 本編

2022/10/6

「それは見当違い。

真反対で正解」



「獲物は前を歩いてないのに前ばかり追いかけてどねえすんねえ？ あん？ 見当違いも甚だしいで、机上ビジネス講師陣達は」

「又々何切れまくってんのよ。オヤジ、切れ易いって近所で評判だよ。老人性突発的激高頻発症候群、どっぶりだって」

「そんなの聞いた事ないでえ」

「ある訳ないジャン。今、俺が発明したんだから。でも、如何にもだって思わなかった？ ありそうだって？」

「ほんなら返すが、正統派熟年当然性義憤広報（後方）支援ではどうだ？ 如何にもだと思わんか？ あん？」

「そのいつも最後につく「あん？」止めてくんない？ 「分る？ 赤毛のアンちゃん」てえ言われている様な気になるから」

「何処をどうするとそんな発想出てくるんだ？ 第一お前は顔にそばかす、あらへんやんかあ。日本人やから赤毛迄は求めんが、せめてそばかす位つけてから言えや」

「フツー、赤毛のアン迄持ち出せば大抵の人は話ボツるけど、オヤジ、そんな処迄食い下がる？ ナニコレ珍百景やなあ」



「しかし、毎日同じパターンやなあ。主題提出、冗談展開、主題復活、主題展開、冗談締め。些か俺も飽きて来た」

「いいじゃないの、他に未だ新手法考え出せてないんだから。無理は禁物。流れに任せよっていつも言ってるの、誰だっけ？」

「分った。じゃ今日もワンパターン展開で行くわ」

「人間、すなおが、一番」

「ほんじゃ、例えば前を歩いてる「筈の」獲物がお金だとしよう。お金は「お足」っていう位だから直ぐ手元から去って逃げていくイメージがあるせいか、お金は前を歩いていて追っかけても、追っかけても追いつかないどころか増々遠ざかっていく、詰り将に「逃げていく」様に思ってるんだろうが、実は、追っかけても追いつかない訳でもないし、増々遠ざかっている訳もでもない。そもそもが、先ず「前なんか歩いていない」のよ。お金でも、なりたいものでも、欲しい成果でも、な」

「どういう事？高尚過ぎて意味、分かんない」

「譬えて言えば「前を歩いている」のじゃなくて「後ろからやって来る」のよ、ある日突然もう種を撒いた事すら忘れてしまっている様な頃に「こんにちは、お久しぶりです。その節は大変お世話になりました」って。「つきましてはあの時のお礼にこれからお返しをさせて戴きたく思います」って」

「はい？簡単に言うと「鶴の恩返し」って事？」

「悲しい結末じゃなくてイントロ部分がな。つまり余り意識せず、返礼等考えもしないで、自然に将又一生懸命にやった事が世の中を巡り巡って一周し、結果、ブーメラン効果で後ろからやって来る、お金はした後の結果産物でしかないって訳よ。だから、例えばお金を追いかけてあたふた走る必要なんてさらさらなくて後ろから来るならむしろゆっくり歩いてた方が先方様も追いつき易いって事にもなるから「呑気してなさい」っていうお話」

「完璧「物は言いよう」の商品サンプル itself だね」

「否。言い得て妙 sample itself で正解」

2022/10/6

他にもいろんなものを書いてきましたが、書いていてこの「父子（おやこ）シリーズ」が一番楽しいです。ノリノリで書けます。

以前にも申し上げましたが、自分の頭の中には意見を異にする何人かの住人が住んでいて彼らがしょっちゅうぺちやくちゃやっておるのですが、そういう連中と頭の中でやり合うのが結構楽しかったのです。

が、

是迄は、その話の中身をそのまま文章にして書いたのでは「お品がないし、ガチャガチャして五月蠅いだけだろう。第一格調なさ過ぎで文化の香りがまるでしない。是では読んでくださる方からチンピラ兄ちゃん扱いされるだけだ」と勝手に思いなして、文章にするときは敢えて「格式作法を整える」為に頭の中身（会話走り書きメモ）を学校提出用として原稿用紙に「清書」するような事をしていたのですが、矢張り普段と違うよそ行きのお出掛け姿はするものではありません。

いかんせんこの羽織袴と被り物に相当の肩こりと息苦しさを覚え、其れもさる事もさることながら、限度いっぱいウンザリ&辟易感に満たされてさしておりました。

それが臨界点に達したと思しき「ある日ある時ある日時」

「ああ、くそっ、めちゃんこ、めんどっちい」

とパソコンをおっぼりなげ、ブンむくれて開き直ってしまいました。

「いっそ、ヤケクソで地のまんま書いてまえ。後は野となれ山となれ、だわ」

と父子（おやこ）シリーズのオヤジそのままに、このシリーズを始めた訳で御座いました。処が、豈はカランや、あろう事か「事实は小説より奇なり」が如く、ダウンロード数がいきなり跳ねたのです。

前の「格式作法を整えた」ものに比して「ガキンチョ丸出しチンピラ兄ちゃんモード」の当シリーズのダウンロード数が。

「ナニコレ？ バッカみたい。何も加工しない方がよっぽど良かっただけじゃないのよ。なにやってたんだあ？ 今迄俺は」

それで、一気に気が楽になり毎日ストレスを発散しながら今日に至っておる次第で御座います。

# 本編

2022/10/8-2

## 「じゃ半分、持つよ」



「何今頃驚いてんだあ？あったり前じゃねえか、そうなんの」

「何怒ってるかなんてもう訊かないから。毎度の事で一々訊くの、疲れっから一人でどうぞ」

「日本に来ている外国人留学生の内、去年卒で国内の日本企業就職希望者が約 55%居たんだが来年卒予定じゃなんと 40%に減っちゃったって。たった 2 年で」

「激減てえ訳でもないの。単なる経年振れ幅範囲じゃないの？」

「お前は分からんだろうが、外国人と日々接している俺からすればこの数字、2 年間じゃ異常に高いしその記事の解説によると「主因は日本語重視？」と書いてあったが、是、ピンポンだわ」

「何時もオヤジが言っている例の「スタート時点で覚えなきゃなんない基本文字アルファベット 26 対ひらがな、カタカナ、当用漢字締めて 2000」のせいって事でしょ」

「其れもあるが、自分が英語話さない分、全部相手に日本語喋れるようにしろって押し付け

るのは、自分は指一本動かさずに相手には早朝から深夜まで働き詰めに働けって言うてる様なもんだろ。不公平極まりないじゃねえか。そこ迄日本語を強いるんだったら少しはこちら側も英語勉強して喋れる様に半々の痛み分けにしてから謂え、って。何ぶってエラソにふんぞり返ってるんだ、お上も下々も。何故「じゃ半分、持つよ」って言える様に英語教育、促進しねえの」

「でも今のカチコチの英語教育のまま時間増やすだけだったら、逆に重圧感増して却って逆効果なんじゃないの？増々喋れなくなる気、するけど。生徒のみならず教える先生も。小学校からの英語教育開始で皆ビビリまくりらしいよ、先セの方が」

「前はキーボードアレルギーってあったけど今そんな事、言う奴滅多ないだろ？もうなれちゃったんだよ。それに使えないと仕事になんないし。

でも、こと英語に関しては明治以来ずう〜っと英語アレルギーだよな」

「やっぱ日本語 100%の我が国じゃ使わなくてもすんじゅうからじゃないの、英語」

「それは有る。外国じゃ他民族で言葉ちゃんぽん国なんてざらにあるから誰にでも通じる共通の言葉が必要になるわなあ。で、どうせなら国外でも通用すればそれに越した事ないってなって大抵多民族国家育ちの人は英語を使う様になる。ならざるを得んよな」

「でも移住政策取るかも、って噂が立っただけで固有文化の破壊だとか日本語の危機だとか治安が乱れるとかヒステリー症状興しちゃう位だから今更ちゃんぽんにしよったって、そりゃ無理ってもんでしょうに」

「だから俺はいつも言ってんのよ。文字はアルファベット 26 そのまま使うだけですむ様に公共看板なんかは全部ローマ字表記加えろ、英語が頭の良し悪し判定に使われる位なら義務教育での英語の時間、全廃しちゃえ、って。その方がよっぽどマシだわ。外国人は相手が英語喋れるからインテリだなんて誰も思っちゃいない。あっ、この人喋れる。助かるう〜位にしか思っていないんだから」

「えっ、そうなの？知らなんだ」

2022/10/8-2

今朝、先日アポなしで「日本語を教えてください」とやってきた外国人の青年がまたやってきました。

処が彼は初回から約束の時間を 30 分遅れて到着。

理由は寝坊。

怒鳴りつけました。

「遅れる事は様々な事情でままだ。それは責めない。怒っているのは遅れたからじゃない。遅れる旨、連絡しなかったことだ」

外国人さんは日本人からのプレッシャーからか兎に角語学だけ勉強しようとしています。なので、

「それは違う。むしろマナーや習慣を学ぶ方が大切だ。

時間に遅れて連絡しないことを我々日本人は極端に嫌う。

そのマナー（お行儀ではなくて礼儀。我々の大半は礼儀とお行儀作法を取り違えている。礼儀心の無い外見栄だけのお行儀作法は完璧であればあるほど最悪なのに）がちゃんとしていれば多少語学が下手でもなんとかなる。相手が日本語を執拗に求めるのは他にコミュニケーションの取り方を知らないからだ。日本語と言う形式だけのお行儀作法を自分に対する尊敬や礼儀と取り違えているからだ。

日本人は英語がダメ。

外国人はマナーがダメ。

だからすぐさまその中間にあるお行儀作法の化身である日本語を「覚えろ」と一方的に迫ってくる。まずは形だけ整えようとする。所謂った保険を掛けてくる。

其れじゃ何時まで経っても平行線だ。兩岸の間に浮かんでいる「日本語」という浮島をあれこれ言って眺めているだけの様なもんだ。まるでお互いが近づかない。

それを改善するには

我々は英語を喋れるように努力し、君たちはマナーを先に覚えるように努力しろ。

何故なら最終目的は良いコミュニケーションを取り合う事だからだ。兩岸に橋を架け、行き来できるようにすることだからだ。

日本語検定 1 級を取るといったような中間に浮かんだ浮島を相手にしていても仕方がなかろう。此処ではその橋掛けの為に語学とマナーや習慣、両方を教える」

謂っちゃいました。啖呵、切っちゃいました。

さあ、大変です。

大言壮語をしてしまいましたので、これからがめちゃんこ大変になってしまいました（大汗）

## 本編

2022/10/9-2

### 「二流（ふたながれ）」



「目的と目標。効果と効率。質と量。質と量は全然違うが目的と目標、効果と効率は全然違うものなのによく混同されがちだ」

「オヤジの唐突さは最早国宝級だね。畏れ多くて手が出ないわ」

「まあ聴け。今日は日曜日でお前も休みだろう」

「明日の祝日は臨出だから、三連休じゃないの。だからそんなに長くは付き合えんよ」

「あ、そ。初めから歯止めかよ。ま、いいや。目標は大抵順位か量で設定される。要するに数字だ。しかし何故その数字になるのか？それを意味付けるのが目的だ。効率も「目標と目的と同じ位置関係」で効率追求を始まる前に、先ず「数多ある目的の中から（ブレイクダウンされた）効果とセット」でどの目的、効果を狙うか、ターゲットを話し合っ決めておかい儘、或いはそれと切り離して目標だけ効率的に追いかけても、その前の目的やら効果項目の選択を誤っていたら目標もその効率向上も意味がなくなってしまう。質と量について在りがちなのが量を追いかけて頭数ばかり増やし、各頭がどのレベルの質なのかを忘れるケースだ。要するに「烏合の衆」づかみだ」

「オヤジ、その最後の、気を付けた方がいいよ。「あんた、何様？」って言われるから」

「お、いいアドバイス。かたじけない」

「今度は江戸時代のお侍かよ」

「Then a Thank you so much, Sir」

「俺、横文字嫌いなんだけど。それに Sir（閣下）でもないし」

「基。で、この相対する二つのラインを川に見立て、二流（ふたながれ）を作ってみると、彼方（あなたあ）、目的-効果-質ライン、此方（こなたあ）、目標-効率-量ラインが出来る」

「今度は相撲の行司かよ。いつから式守伊之助になったの？」

「事の序。は、兎も角として、是を世界経済に当嵌はてみると目標-効率-量は新興国、昔流にいえば発展過程国、インフラ未整備国に当嵌る。目的は議論する余地なく「貧困からの脱出」で後はどういったマイルストーンで如何にそれを効率よく達成し物的に豊かになるかの方法論だけだ。だってそこの人たちはお金も食料も満足になくて飢えているから、そうなるって当たり前だろう」

「少しはタブー用語、気にしだしたようだね。発展過程国とか敢えてのインフラ未整備国とか」

「うん、何しろうるさいからな。一言一語。で、だ、片方の目的-効果-質ラインは先進国ラインと言えるかもしれん。特に3語の一番上にある「目的」を「是から進む先」「ビジョン」と言い換えると分り易い。先進国は地球の行先を真剣に考える義務があると思う」

「義務が出た処で権利対義務なんかの話に逸れると若い奴、プチッするから止めてよ」

「good advice again」

「英語使うな、日本語で言えって」

「ハイと言いつつ、ところがだ。先進国がその議論を忘れ、先進国のクセして GAFAM なんかは目標-効率-量、ばっか。そしてそれだけに役立つ商品やサービスばかり、提供し続けている。是じゃあダメよ」

「で？」

「恥ずかしながら俺は「二流」。その先 no vision よ」

2022/10/9-2

二度ある事は三度ある。

大体そんなもんだろうと思っておりましたが、矢張り昨日大遅刻した外国人青年は今日も又遅刻してやって参りましたし、自分も又それを怒鳴りつけました。

何でも講義料を忘れたことに気が付いて引き返したのだとか。

「遅れる旨、電話をせん理由にはならん。お前は国元に帰った方がいい。約束事を守れないんだったら我が国に居る必要はない」

と敢えて「きつうい言葉」を選んで。

外国人でも怒鳴られると肩をすぼめ、手のひらを重ねてしおれる姿はどこの国でも同じなことが分かり、ちょっと驚きました。

怒鳴ったのは「怒りに任せて」でもなんでもなく「その位怒って見せないと分らんやろう」と言う「非常に強い教育的指導」で御座居ました。

最後には

「是が今日の講義だ。どう？ちょっとはビビったあ？あん？」

と毎回、去り際には冗談めかす事の効果もあるのかもしれませんが、此处からが我が国の青年たちとは違っております。

それは、怒鳴られても、怒鳴られても又戻ってくる事です。戻ってくれば「何故あの時、俺が怒鳴ったか」の説明が出来、仲直りもできますが、一回だけで戻ってこなければ怒られた記憶だけが残ってしまい、トラウマになるのが関の山です。

同一時刻に一回だけ「怒鳴るのかコンコンと説明するのか」を選べと言われたらその選択はなかなかむづかしいものがあります。

しかし、時間差攻撃が出来るのなら一回目は怒鳴って、時間を経ても互い考える時間が持てれば二回目は言って聞かせる事が出来る。時間さえ置けば正反対の事を両立させるが可能になるからです。

外国人さんはたいていが戻ってきますので、お互い、そのチャンスが得られますが我が国では、悲しい哉チャンスが一回しかない（怒鳴れるともう二度と戻ってこない）ので往々にしてどちらか一方を選択するしかなくなっているようです。

（追記）

講義開始時間を30分遅らせる。

タイマーアラームを掛けて寝る事を提案。

お金を忘れた時は、電話をくれれば次回二回分まとめ払いでOKと伝えた。

こういう提案ができるのも、彼が戻ってきたからです。

但し、明日、講義を受けに来るかどうかな？

前もってこの様に好事例扱いで書くと、得てしてその後、パツタリな事が多いです。



# 本編

2022/10/10-2

## 「助け舟」



「是は譬え話だ。俺にはそういった趣味はこれっぽっちもない。誤解すなよ」

「ん？いつになく予防線張ってんね、初端から」

「佐渡さんと真象さんが喧嘩してお互いに意地悪をしたんだ。相手が一番嫌がる事を。何だと思う？」

「佐渡さんてえ、サド侯爵の事で真象さんてえ、マゾの暗喩？」

「まあ、お好きに。で、お互いが尤も嫌がる事って何だと思う？」

「俺、どっちにもなった経験ないから分かんね」

「正解は「お互い何もしない事」だ」

「？」

「虐めて喜ぶ奴と虐められて喜ぶ奴。

虐める事が出来ない状態と、虐めて貰えない状態。

詰りお互い何も仕合わない事」

「誰、それ？そんなの考えた暇人」

「ネット民」

「ユーモアとかシャレと言うより何かちょっと怖い感じ。この手のブラックユーモア系列」

「ま、ある意味正しい感性の持ち主だな、お前」

「余り褒められて嬉しいアイテムじゃないけどね」

「処がこの手の話は今の我が国の至る所で見かけられる気がしたんだ。今日敢えてこんな

キワドイ譬え話で始めたのは」

「どんな例の事、言ってるの？」

「例えば言いたいのに謂えない。突っ込みたいのに突っ込めない人間と、言ってほしいのに言って貰えない。突っ込んで欲しいのに突っ込んで貰えない。外見上は何も起こってない様に見えるが実際にはお互い欲求不満渦巻く不可視な暗闘が繰り広げられている、って何処かで目にしなかった？」

「いかにも、かも」

「原因はさかさスタートにあるんだ。我々は思っている事とは真反対の行動を取る事が多い。したいのに無関心を装ったり、してほしいのに拒否したり。詰り本心を隠す。隠す為に正反対の煙幕を張ってバッファを取る。安全を図る為だ。だがさかさスタートだから当然その弊害が出てくる」

「どんな」

「小さな親切大きなお世話。人様の事に口を出すな。お節介は止めろ。じろじろ見るもんじゃありませんてえよく耳にするよな。節度ある人間の当然の振舞い、として。だがそれは平時に於いてで、有事ではそうはいかなくなる。平時の「節度ある振舞い（見て見ぬ振り）」が有事には「見殺し」と同義へと激変する。例えば」

「オヤジ、ほんと好きよね。例えばとか譬え。何で？」

「小難しい語並べるより譬え話とか具体的なブツを使って絵画的に話した方が相手に分かり易いと思うからだ」

「分った、一応理屈は。で？」

「例えば、左手側から右手側に半円を描き、右手側からも左手側に半円を描く。その半弧が交わっていればお互い往来できるし上からの落下物も受け止められる。

が、交わっていないと往来もできないし落下物も下に落ちるのを傍観するだけ。

要するにセーフティネットにならん。セーフティネットを張んなきゃと思えばお互い越境して一步相手方に踏み込まざるを得ない。大きなお世話って言われても大きなお世話で結構だから助け舟、出すべきだと俺は思う、今の様な時こそ」

「今日メチャ気合、ウっスね」

「君い、いつもと言い給え」

2022/10/10

自分は、しばらく前に「コロナ禍で大変ね」と言われていた飲食業に従事している者ですが、訊かれれば「はい」と申し上げましたが、訊かれなければこちらから「大変です」と言ったことは一度もありませんでした。

その様に何も申ししていないのに突然

「皆大変なの。あなただけじゃないの。何、自分だけ大変がってんのよ」

と息巻かれたことが何度かありました。

「口には出していないが、自分の外見がそう物語って、押し付けがましくなっているんだろうか？」

と幾分反省し、殊更普通を装うようにしていたのですが、其れでもまだ言われるので、だんだん嫌気がさしてきました。

以前、「成功確率1%失敗確率99%のものでも丁か半かと言えば50対50で成功確率50%になると思えば気が楽になる」と書いたことがありますが、今回はその逆で「大変さにも個々にレベル差があるはずなのに一括して「大変は誰もが抱えている」と押し並べされた」様で嫌になったのです。

それはさておき、是を書いておりますのが十日の朝五時。

昨日お話申し上げた外国人の青年が本日やってくるのか否か、現時点では分っておりません。

さて、本日どうなりますやら。

来なかったら結構、自分の方がショックを受けるかもしれません。

## 本編

2022/10/12

### 「今の処、オチ無し」



「今日は何？何又言い出すの？もうちゃんと用意出来てっから、どうぞ、お始めなすっておくんなまし」

「先手打ち、か。日々成長しておるな、感心、感心、と言いたい処だが、それを言わなければもっといい。言わずに相手を「黙って座れば、ホイホイ喋る」モードにさせるのが極意じゃ」

「何、深山幽谷で免許皆伝授ける忍者のお頭みたいな話し方してんのよ。かったるいから、さっさと始めてよ」

「御意（ぎょい＝分った）。では「最近価値観の多様化が徐々に進展し始めている。その証左として、リモートワークの定着で大都市一極集中から地方分散へシフトし始めたり、東大卒が大企業就職や官僚にならずにスタートアップ企業に職を求めるケースが増えたりもしている」とよく耳にするが、俺はどうも眉唾もんだと思っているのよ」

「あらら、又一言居士の天邪鬼する訳？」

「たわけっ、いつもいうておろうが、俺は正論吐き出しマシンや、て」

「まだ、忍者のお頭、やってんの？此処は都会で🎵昼なお暗き🎵箱根の山の奥深くじゃない

んだけど」

「小田急線に乗れば同じ県内、一本で行けるから大差ないのよ、都会も箱根の山も」

「はい、はい、続けて」

「要するに何故そう言った現象が起き始めたかと言えば簡単で、早い話「お金」よ。都会や大企業じゃもう混みあい過ぎておいしい果実の取り分が目減りするばかり。だったらもっと空いた処に行った方が取り分増える可能性が高まる。だからシフトするっていう見立て。いずれにせよ「価値観の多様化や分散化なんか全くしてなくて、元を辿れば増々「お金へ一極集中」よ。ただその達成方法が「多様化、分散化」しているだけ。多様化分散化している様に見えるだけ。実態は他の多様な価値観の一切合切が萎んで増々「拝金主義」が台頭してるのよ。ただ十重二十重と手が込んできただけの話。だから地方に移り住むって聞いても官僚止めてスタートアップに転職するって聞いても、なんか「耳のデジャブ（既聴感）」しか感じなくて新鮮味もシンパシーも感じられないのよ。なあんだ、又かよ。またぞろごちゃごちゃ言ってるのかよ、ってなっちゃう訳」

「じゃ、どうしろっていうのよ。それすらできない人だっているんだし、第一オヤジだって毎日金策、お金第一生活してんでしょ。矛盾してない、どっか、言ってる事とやってる事」

「そういわれれば返す言葉もないが正直もう売上だ、コストセーブだ、金策だ、お金、お金、お金って、いい加減お金にウンザリこいてんのよ、その繰返しに。お金なんてあの世に持っていける訳でもないし、他に何かないのかよ、って」

「女、もとい、恋愛は？」

「それこそ「金の切れ目が縁の切れ目」 お金 itself（そのもの）やんけ」

「じゃ、何？色と金の欲以外、何か他に是と言った行動原理、あんの？」

「第3極？」

「そう」

「未発見」

「なあんだ、今日はオチ無しかよ」

「オチ無し、ちゃう。未だ「落とし処見えず」や」

2022/10/11-2

昨日「来る」と言っていた例の外国人青年は結局来ませんでした。

日本人が叱り飛ばす事があるなんて思いもよらなかったからかもしれません。

それはさておき、そろそろ当店の外国人従業員さんの在日就労ビザ更新の季節です。従業員が邦人ではないと、こういった仕事が増える訳ですが、反面この労苦をしてでも、外国人従業員を雇うメリットがあります。

それは（自分の場合だけかもしれませんが）変に気を使わなくて済むことです。

裏の裏読みとか「こういったとすれば、相手はこう出てくるから、それを抑えるためにはこうしておいた方がよさそうだ」などと、あれこれ考えなくても済むからです。

怒鳴り声を上げて「ボスが怒鳴るのはどこの世界でも当たり前」ですんでしまい、後に尾を引かないからです。

要するに気が楽なのです。

謂ったら行っただけ、やったらやっただけの事で済んでしまう気楽さです。

是を味わうと、言葉の壁なんてなんのその。

「なんか不具合あるんだっけ？」

です。

同国人同士で言葉は通じるのに意思疎通が出来なかったりすると却ってイライラします。

逆に言葉が通じないと他の伝達方法や五感＋第六感（勘）能力がアップする特典がついてきます、

なので、毎年、大変を承知で在留ビザの更新をしている訳で御座います。

# 本編

2022/10/12-2

## 「ネクスト探し」



「冒険投資家ジム・ロジャースって知ってる？」

「知らんよ。先ず、その冒険投資家って名前、何なの？投資家はリスクが当たり前だからわざわざ冒険付ける必要、ないんじゃないの？」

「この人は若い頃バイクで世界一周したから付いた名前らしい。そのせいか、この人は紙じゃなくて実際に目にしてきた事を投資の最終判断にしている処が面白い。単にデータだけじゃなくて、な」

「そういう謂われかあ。そういやオヤジも四国一周徒歩でお遍路旅したって」

「いやいや、それとはスケールが違う。俺のはそれに比べると前座の余興みたいなもんだ」

「ヤに今日は謙遜するね」

「あら、知らなかったん？俺のベースは「謙遜」んて」

「初耳だわ。で、そのジムさんがどうしたって？」

「ジムさんが言った事でスゴク耳に残っているのがあるのよ。投資の仕方の話の中で出てきた言葉」

「どんな？」

「そこは混み過ぎている。空いた処へ行けて」

「なんかよく分かんない。何の変哲もなさ過ぎていうか、当たり前っていうか。その何処が心に残る元になったの？その方が不思議」

「名言はフツーなの。ま、いいや。で、この前、もう金も女もウンザリって言ったよな。「新」

と銘打ちながら毎回似た様な筋書きのドラマ延々で、スカもいい処。いい加減手垢の付いてない「ネクスト・ワン」ないの？って」

「そんな気もするけど。で、ジムはそれにどう関係するの？」

「金と女。将に立錐の余地なしじゃない。皆、欲しい欲しいってそこに集中しちゃってるでしょ。争いだらけの手垢だらけ。なら、そんな処に行かず空いた処探せばいいんだなって思った訳。その言葉思い出して」

「空いてる処ってどんな処よ、例えば。

それで、そんな処に行ってどうするのよ？って」

「まだ曖昧模糊モコなんだが、第3極は「好きな事をする」事じゃないかなって気はしてるんだ。アイドルになりたいとか野球選手になりたいとか言うけどそれは本当に好きだからじゃなくて本心は単に「お金が欲しい、有名になってチャホヤされたい」だけで、その達成手段としてのアイドルや野球選手の事を「好きな事」とか「なりたいもの」って言っているだけだとしたら、そんな事に囚われず二枚舌使うのも止めたとしたら自分の本心からでた「本当に好きな事」は一人一人皆違う筈なのよ。混みあう筈ないのよ、別フィールドなんだから。皆、木の枝みたいに拡がって伸びればお互い邪魔し合わないから陽の光、十分浴びれてすくすく伸びられるし。枯れちゃうのは枝が密集してて陽が満足に届かないからでしょ？」

「理屈は何か分った様な気もするけど、具体的には何をしろ、って訳？ どうやって食っていくの？その辺がじえんじえん分らん」

「そうせつくな。今日の処は此処迄でやっとだ。ただ少なくとも売り手市場だ、買い手市場だ、のお大騒ぎからは抜け出せそうな気がしているのよ」

「で、明日へ続く。乞うご期待って訳？

案外商売人ね、オヤジ」



2022/10/12-2

輪番制の自治会班長の就任依頼が来たのですが、お受けできませんでした。

と言うのも、班長の主業務に「回覧板回付業務」があるからです。

何の事かと申しますと、自分はいつもその回覧板を何日も貯めてしまい周りにご迷惑をかけっぱなしだからです。

では、何故貯めてしまうのか？

と申しますと「郵便受けを見るのに相当なる心理的圧迫を感じる」からで。

えっ、何のこと？

と疑問に思われるでしょうが、実は郵便受けの中にある業者さんからの請求書の山を見るのが怖いからです。

勿論払えていれば怖くはないのですが、昨今の時節柄、払えないものも結構出てきているのです。

無論、請求書が来るのは分かっております。だって買ったり使ったりしたんですから。

問題は、請求書の額が目算していたよりかなり多めだったとか、使ったのにそれを忘れてしまい、結果「想定外の出費」が発生したような心理になってしまうからです。

その為、郵便受けを見る覚悟が出来ない日が一週間とか十日間とかになってしまう訳です。

なんともはや、情けない事になっております。

「俺って、結構小者だなあ」

と自信ランクが5段階くらい引きさがってしまいました（恥&泣）

## 本編

2022/10/13

### 「特に好きな事なんて」



「今の若い人に「好きな事、やっていいんだよ」と言っても「いきなりそう言われても、そんなの、特にないし」って反応、結構多いよな」

「そう。確かに「あれしろ」っていわれるより「どうぞ」って言われた方が却って戸惑っちゃう」

「でも俺の観察によれば、それは本人の勘違いだと思うんだわ」

「えっ、勘違い？何の勘違い？例えば俺は何を勘違いしてる訳？」

「例えば俺は「男のおばさん」てえ陰口叩かれる位お喋りで、昔の男からは「大の男が、体裁悪い事を」って言われそうな位「主婦する」事が大好きだ。炊事洗濯家事掃除、要するに整理整頓して整っていく様を見るのが快感な訳。でも其れって職業にならないし、お金も全然入ってこない。勿論社会的地位にもまるでならない。でも、大好き」

「え、何が言いたいのか？」

「詰り、よくよく考えてみれば好きな事はあるのに、それで肩書付かないとか収入が得られないとかだと思うと、自分の方からそれを引っ込めちゃうか、心の奥底に仕舞込んでしまって日の目を見ない儘に忘れてしまっている事、結構あるんじゃないのかなあって思う訳」

「そうなのかなあ？あんまり心当たりないけど。なんかまだピンとこないよ」

「他には退職した旦那衆がやる事なくて暇とか、肩書なくなって、収入も年金だけの大幅減

になった途端、もう自信無くしちゃって、役立たず視されるのがイヤで妙に虚勢張ったりする事、在りがちだよ」

「それは感じる」

「でも、仕事って別に収入が得られるものばかりじゃないよな。例えば無料奉仕はお金貰えないどころか手弁当で出費が嵩む事だってあるけど、ちゃんとした仕事だし、主婦にしたって炊事選択家事掃除で一円もお給料戴けないけど、立派な仕事でしょ？是だって無意識に「お給料貰えない肩書無しの仕事は仕事じゃない」って鼻から引込めちゃっている訳よ。又「炊事選択家事掃除の価値を認めろ」って騒いでる奥さん方だって、無意識だとは思うけど、その主張とは裏腹に自分の方から「肩書も稼ぎも得られない仕事は仕事してる事にならない」って無言のプレッシャー、旦那さんに掛けてんじゃないの？」

「面白い見解だね」

「要するに是も、何も始めないうち、日の目を見る前から自分と周りが芽を摘んじゃってんのよ。自重自粛になっちゃってんの」

「じゃ俺は何に遠慮して自重自粛してんだろ？」

「それはお前の領域。でも好きな事見つけるには先ずそういったゴミ撤去の作業が必要なんじゃないの？自重自粛ゴミとか遠慮ゴミの。ゴミに埋もれると元が何だったか分なくなる事あるから早々に撤去した方がいいよ。感覚センサーが押し潰されて麻痺する前に」

「俺はゴミ屋敷に住んでて畳が見えなくなっているって訳かぁ」

「立退き喰う前に、自ら片付けて資源ゴミに出した方がいいと思うよ」

「資源、ねえ」

「お前には不要なゴミが他で化ける事もあるから。その断捨離を次から次へと回せばいいだけだから」

2022/10/13

今から5年ほど前、お店を始めたころによく言われたのが

「アンタがやってんのは、慈善事業。商売なんかじゃないわよ。ボンボンの趣味ってだけの話」

これはお店にいらしたお客さんで「こっちへ来て一緒に飲みなさいよ」と言われてお席にお覗いた際、お客様の酔いもあってか、必ず最後に言われた言葉でした。

それから、幾星霜、さんざんな不慮に遭いながらもお店を続けてきた結果、今になって思うのは

「お客さんの言ったことが正しかったようだ」

という事で御座います。

矢張り商売と言うのは、意志や信念、儲けへの執念だけで続くものではない様です。

嘗て中国人で我が国に帰化した焼鳥事業で成功為され、その後広告関係の事業に移られたご亭主が申しておられた

「どんなに儲かっていても、その商売をする事が楽しくなくなっていたら即刻辞めた方がいい、あるよ」

が的を射ていたようです。

「商売をすることがあたかも趣味をするが如く好きじゃなきゃできない、楽しいから続いている。こうなるまで大損、ぶっこきまくっていても」

それが現在の心境で御座います。

## 本編

2022/10/13-2

「えっ、それって自分のあるじが  
自分じゃなかったって事？」



「うんじゃらもんじゃのしがらみやゴミを払い除けて、自分が好きな事を見つけ、それを柱に据えるには？さて、どうしましょう？」

「どうしましょう？って、イキナリお題、俺に振られても困るよ。自分で言ったんだから自分で落とし前、付けなよ、ね」

「落とし前って、お前、かなり 893 路線に傾いてんねえ」

「何言ってるの、こんなの国語辞典レベルじゃないのよ」

「国語辞典じゃ「落とし前」じゃなくて「オチを付ける」とか「落とし処を決める」が一般的でしょうに」

「又始まった。♪其れが貴方の悪い癖え♪」

「お前も最近、しばしばトチ狂う様になったな」

「♪そうさせたのは、誰のせえ♪」

「おっ、ひらめいた」

「全くどういう思考回路してんのよ、此のオッサンは」

「Well now, then start」

「だから止めてって、イングリッシュ」

「ドンマイ、ドンマイ。では、先ず  
ステップ1。」

「日清どん兵衛じゃなくてドンマイ？」

「だから、ステップ1だって」

「おちよくっただけよ。ヘイ、プリィずう」

「ステップ1 先ず自信。

ステップ2 「自」信は「他」信じゃないから当然自分の側で持つ。

ステップ3 「自信」は言い換ると「殺生与奪の権」

生かすも殺すも「其れ次第」の其れ。

ステップ4 殺生与奪の権が相手側にあると♫とっても不安よ、この、あ、た、しい♫、基。

ステップ5 相手とは人だけじゃない。資格や免許もそう。人なら上司や先輩、ご近所、将又友達、先生、他には奥さん、子供さん、押しなべてご機嫌伺いやご機嫌取りをする対象。業界用語でステークホルダー、和訳すれば利害関係者。

ステップ6 生かすも殺すも其れ次第の「其れ」が向こう側にあると当然落ち着かない。あまつさえそれに選択肢がなく、たった一つだと、もう迎合するしかなくなる。言いなりになるしかないから♫あなた次第よ、お好きに染めてえ♫状態

ステップ7 なので、殺生与奪の権を自分以外のものから自分側に取戻す事が第一義。詰り自信回復が第一。

ステップ8 「自信」とは「人の評価より自分の好きを前に置き、置いたその好きをあの手この手で守り抜く事」で得る力。

ステップ9 「自分が「本心から好き」で生れる世界でのみ「自分が自らのあるじ」になれ、そこのあるじに成れた事によって生れるのが「自信」。己に対する殺生与奪の権を完全掌握するに同じ。

ステップ10 なので「自分のあるじは自分である」という自覚と行動。その代わり其れによって生じる一切の責任は己が負わねばならん。人に転嫁は出来ぬ、の覚悟要。以上」

「簡単に言うと「今迄自分のあるじが自分じゃなかった」って事よね」

「そう」

「其れにしてもよくもまあ、思い付きであれこれクツチャベれるよね？オヤジ。

爺ちゃんからどんな遺伝子貰ったの？」

「死人に口なし」

「なんか俺、不安になってきた」

「なんで？」

「その血筋、いつ俺に発現するかって」

「発現？」

「又長くなって面倒いから、やめとく」

2022/10/13-2

最近、殺生与奪の権を「お金さま」がしっかり握っておられて、なかなかこちらに渡してくれません。かなり手ごわい相手です。

一体いつになったら殺生与奪の権をこちら側が持てるようになるのか？

全くの視界不良でございます。

そんな訳で本日は「殺生与奪の権」を題材に本編を書いてみました。

(著者プロフィール)

うときゅう いっき

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

一九五三年東京生まれ。

早稲田大学第一文学部露文学科を二回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に二十年間勤務。同子会社経理部等に十六年間勤務。

四十歳から五十二歳まで十二年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社うとQを設立。

現在主業はネパールカーリー屋。

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つのk。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社うとQナマステ別館堂出版部

〒二一五 - 〇〇一八

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東5丁目34番7号

電話：〇四四 - 九八九 - 一六九八

発 売 株式会社 うとQナマステ別館堂出版部

編 輯 しばらくの期間「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン&DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in japan 2020

発行日：二〇二三年五月二十四日 初版発行



本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

（その他著書）

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。